



隨見隨抄

五

通俗西湖自話
松嶋因志
北海隨筆
長崎紀行

15
448
5





長崎紀行
 抄錄
 北海隨筆
 島國誌
 俗西湖佳話

448
 卷 5

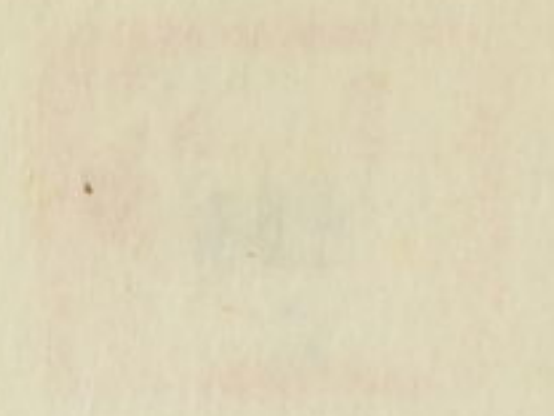
通俗西湖佳話

松島圖誌

北海隨筆

長崎紀行

抄錄



二五五五
一六六六
二七七七

通法西湖佳話

梅屋の主人の序あり
獲生道人

獲生の筆弱統一走現西湖十景諸公傍都取法

○葛白嶺仙蹟

上保最塔より西へ向ケテノ一帯ニ限リテコシテ葛白嶺ト云フ
其由未ダ尋ズルニ昔晋ノ代ニ葛洪ト云異人此嶺上ニテ修行メ
仙術ヲ成就シタルニ因テ其人ノ姓ヲ以テ嶺ノ姓トシタル件ノ
葛洪号ニ稚川ト云陵ノ句容ノ人ニメ其昔ニ國ノ時ニ左慈
ト云者ニ仙術ヲ學ビ得テ白リニ天ニ升リタル葛白嶺仙ノ
孫ナリ葛白云天ニ升ラントスル寸鄭思遠ト云弟子ニ仙家ノ秘
ヲ殘ラズ授ケテ云リ我子孫ノ中ニ若クシテ傳ヘツキ者出来タラ
ハ攝テ隱スルトナルベシト云々ナル人ノ血脈見葛洪ト云
父母ニハ年ヲハナシ且上甚貧空窮ナリ

一覽

一説話

岳墳

岳父岳母

葛洪云サレバ軍法ニ先声ト

云アリテ敵ニ聞オホクセシムルヲ所ニ要トス

葛洪抱撲子内外篇全選方百卷肘后方四卷等ノ各
ヲ著セラセ行ハル

○断橋情蹟

情ト色情ノ情ナリ浮氣ニマアタル者ハ後ニ浮名ヲ流シ直実
ニシテ心深キ寸ハ終リシ人モ死ニアリ愛ニ元ノ事ナリケルカ古ノ
姑蘇ノ地ナル蘇州ニヒトリノ士人アリ姓ハ文名ハ世高ノ字ハ希顔
生レシキ多オニシテ字ハ向深カリケルカ元ノ風儀ヨカラサル故ニ心
アル者ハ仕宦ヲ好ミテ隱者トナリ一生詩文ニ慕スモノ多カリ
ケレバ夫世高モ年二十ニ餘リケレバ立身ヲ願フ志ハ浅ウシテ
風流ヲ好ム心ハ一ノこ深アリケリ

老娘

在下

郎君

小娘

地獄ニモ知ル人トウレシク

好丈夫

○岳墳忠蹟

宋代ニ岳飛字鵬舉名將ハ武勇智謀英雄忠義ノ
名世ニ隠シテ以人相州ノ陽陰縣ノ生シケル住セシ所ハ杭州ニテ
按察司長官府ナリ死セシトテ大理寺ノ獄中ナリシカニ華リ
タル墳ハ西湖北山ノ棲霞殿山嶺ノ下ニアリ然レ故ニ山水花柳遊
覧イテテキノ西湖ノ物産ニ格外ニ是ヲ引出シテ西湖雄姿ヲ
増シトス 中略 岳トキ宋ノ哲宗徽宗ノ二帝共ニ北狄ノ金國ニ
トウハレ往玉ヒ猶其上ニ折リ宋國ヲ攻侵シケル岳飛以テ
深ク憤リテ命ヲ捨テモ其耻ヲスカバヤト思ヒ居ケル 中略 岳
公ノ下ニ牛自平 王貴臣二人ノ大将アリ 岳ノ張憲子自忠ノ
岳雲ヲ四人イハレモ一カ夫不肖ノ勇アリ 中略 三時ノ宰

相ニ奉檄^〇は他人アリ竊ニ全國下内通シテ和談ヲノミ催シ
テ岳公ヲ悪クシ他ノ如クナリケルカ以テ停ヲ見テ急キテ宗公ニ
見エテ戰ヒテ留カラ和談ヲスルハ宗公ニ意ハサシテ岳公ヲ
止メ玉フ岳公死ス于母ノ喪ヲ勤ムテ後美ヲサシ上ヲタシ人
トナリテ故クニ悔ンサレモ岳公トクテハ叶ガリケレバ其後宗
ノ仰ニテ諸大将皆ヒサセツキテハスラニ岳公ヲ請ビケレバ是
亦ナク朝廷ニオモキケレバニ宗公シケレトナク先使ヲ勤マシメ
ラン中略^〇金ノ元木一萬五千ノ櫓子馬軍ヲ引奉スラ櫓
子馬^〇は馬モ人モ皆サ子ヨキ鏝ヲ重子着テ射モ擲テモ
傷ワズ軍ノ紐ヲ用ヒテ三騎一所ニツギ合セラツキナリテ駐立
ル中略^〇宋朝大キニ恐レテ和談ヲ求ル時素檄^〇が方々金ヨリ
各竹筒ヲ送リテ岳公ヲコソサズシテハ和談決シテ成就スベラスト云
素檄^〇是ニ因テ物^〇カ人ノ者凡ニ吹込ラサテト心ヲ摧テ岳公

父子ノ涙ヲコレラテ大理ノ獄中ニ陷シ無慙ナリヤサ忠孝
仁義百功有テ一涙ナキ岳公ヲハムレリノ咎ニテ死シメス其
宋國ノ滅セラニ子キケリ

〇六橋才蹟

才子ノ二字ハ夫人ヲ美稱ナリサ友夫人ハ世ニ多ケレバ才子ハ少
クニサカニ一二人アリテモ唯一代ニハ信ズルニシテ末代ニ名ヲノ
コトヲカケレバ西湖南オトリニ才子ノ蹟ヲトメまん希代ノ名人
アリ且人ヲ稱^〇才^〇字^〇子^〇瞻^〇別^〇号^〇子^〇東^〇地^〇下^〇稱^〇子^〇四^〇川^〇ノ^〇眉^〇山
ノ人ナリ宋ノ仁宗ノ景祐年中ニ生レテ聰慧ナリク尋常ナラズ
一タヒ吾ヲ讀ハハ心ニ會^〇快^〇カリリテ筆ヲスルハ人々ヲ驚カス
親父獲老泉モ久ク名ヲ得見才子ナリガ時ニ用ヒラルハ王安石
ト云者ノ心根ノヨカラヌ者ナリク見極マテ阿リ論公夫故ニ經上

事モナウニテ自^レ分^ル世^ニ望^ムモ^レ過^リ下^リシガ東坡^ハ妙^ク勝^ル見^ル男子^ヲ設^ケ
ケテ^モ退^キ未^ダ頼^ムモ^レシク喜^ムテ^モ限^リナシ^ク追^ッテ東坡^ガ弟^ニ換^シ轍^字
子由^ト云^ハ出^ス生^ス此^ノ子由^ガ人^物學^オノス^ケレ^ル餘^リ哥^ニ耻^ズ
カヤウ^ニ親^子ノ^間ニ^オ子^ノ聚^ルテ^モ贊^美シ^テ老^泉ノ^ハ老^泉ト^シ
東坡^ハ大^ニ獲^トシ^テ子由^ヲバ^シ獲^トシ^テ合^セテ^モ世^ニコ^シテ^モ二^ニ獲^ト
世^ニ稱^セリ^テ斯^レテ^モ獲^子瞻^子子由^兄弟^成人^ノ後^眉山^ヲ上^テハ^ルク
京都^ニ上^リケ^ル本^朝時^文章^ノ宗^匠也^ク歐^陽修^字永^叔ノ^獲
子^瞻子由^兄弟^各見^テ贊^美ス^ル案^ヲ打^テ後^世
間^ノ文^章ソ^ノ留^ビト^モ嘆^美シ^テ時^ノ宰相^韓琦^ノ方^ヲ送^テ
テ^見セ^シ韓^琦誌^テ驚^キ嘆^シテ^モ云^フ二人^ノ者^ク文^章早^ク
リ^レん^ノコ^ニア^ラズ^ク論^ズん^所ノ^オモ^キ朝廷^ノ御^用ニ^立キ^者也^ト
ト^云フ^コト^ヨリ^メ二人^ノ才^名イ^ヨク^高ク^ナリ^終嘉^祐元^年ト^云フ^ニ
獲^軾ノ^獲轍^兄弟^同時^ニ進^士ニ^立出^サん^仁宗^悅喜^ナメ^ナ

ラズ^レテ^モ宣^フヤ^リ我^ガ先^レハ^レ彼^等ガ^用ニ^立ニ^テ存^ツ跡^ハ
跡^ノ人^ニ殘^シオ^クん^セト^テ遊^ニ翰林^學士^ニナ^サレ^テ面^目ヲ^施
榮^華ヲ^極メ^ケリ^去程^ニ廿^カハ^リテ^神宗^皇帝^ノ時^カ王安石^石
信^用セ^ラレ^テ宰相^トナ^リ極^メテ^執拗^ニテ^青苗^錢ノ^法ト^云フ^ノ思^ヒ
ヒ^付テ^モ其^ノ執^行シ^テ獲^軾者^苗錢^ノ法^ハ民^ノ害^ト
ナ^リテ^宜シ^カラ^ズト^諫言^ス王安石^石古^法古^例ヲ^改メ^カト^獲軾^ニ
ニ^テ古^法古^例ヲ^カル^事ヨ^リシ^カラ^ズト^云ク^様ニ^サス^クト^意ハ^忤
ケ^レバ^王安^石ナ^シカ^ハ堪^フキ^ワヒ^ニ獲^軾ノ^思サ^ニ言^上シ^テ杭州^ノ
ノ^通判^トシ^テ西湖^ノ地^ニ左^遷ス^獲軾^ハ下^地好^ク山水^ノ樂^ヲ
遂^ニシ^テ大^キニ^悅テ^カナ^シテ^モ其^ノ時^弟子由^モ同^ク京^都ニ^テ
做^官テ^アリ^ケル^ガ常^ニ見^ル正^直ニ^シテ^折シ^テ上^ノ意^ヲ逆^フヲ^見テ^ラ
行^クニ^何カ^難儀^ニカ^及ブ^ヤト^心遣^ヒシ^居ケ^ルガ^度退^ガケ^テ
遠^サケ^ラレ^シハ^虎ノ^口ヲ^逃シ^免ナ^リト^是モ^却テ^喜ビ^春兄^ノ文^同

ト共ニ東坡ニ餞別シテ名残ヲ惜ミケル子由云ク我兄杭州ニ
あり玉リ、接テ平生ノ筆ヲ出シテ上ニ政務ヲ批判ス
ル意ヲつくみかん詩賦ナシト作り玉フ^テカラズ東坡ケニモト感佩
ス又同ガ贈リマ詩ノ中ニ西句アリ

北窓^{ミヤコヤシク}ノ暮東休^ト向^シ之^レ 西湖^{ウシホ}祖^シ好^シ莫^シ吟^シ詩

中略 東坡位所ニあり者ライツモ公用畢ル寸ニ直サニ西湖ニ遊
ヒテ眺^ル色ヲ玉ミトス山水アリサニ変ラズカラフ晴雨ノ室時^ノ
ノケレキニ變化サテマシトシテ

湖光灑灑晴偏^ハ好 山色空濛雨亦^ハ奇

若把西湖比西子 淡粧濃抹也相宜

此待ノ世ニ伝アリシヨリ世上ニ西湖ヲハ西子湖ト云ケリソノコ
録ニ唐ニ名ヲカキ傾城アリ名ヲ朝雲ト甚美色ニシテオオサマ
リ心ヰ上ニ尋常ナラズメハ風流才子等々ニテフワカラル俗人ヲ

嫌フ中略 東坡喜テ是ヲ贖ウテ喜トス 從良

府門^{カサ}ノ東坡湖州ニ在ル時王安石カ^{カサ}方人サテト東坡カ
痼ヲ求テサキニ杭州ニアリシ寸折^ルク詩ヲ作ル中ニ上ヲ詆ル語アリ

片ヲ言上ニシケル湖^ノ捕人ヲ遣^ハテ東坡ノ獄中ニ^シ召^ス初^ニ見^ル
中略 死別ノ詩ヲ作^ルテ我弟ノ稱^ヲ執^カ方トシケラ玉心トテ獄吏
梁成ニツラス梁成ヲ詩ニ上^リソレ語ヤアトト持^シ生^シテ恩^ヲ
ニ預^ラレトテ子由ニトシケラス^ニ獻^ス之^レ神宗^ノ皇帝^ハ以^テ稱^ハ執^カが詆
リノ詩ニヨリテ心ヨカラス思ヒ居^ラレハ折^テ首^ニ獄中ノ詩ヲ見^テ玉

聖主如天萬物春 小臣愚暗自^レ止^シ身

百年未^レ了須^レ還^シ債 十日無^レ期更^レ累^シ人

是處青山不可^レ埋^ス骨 他時^ノ夜雨^ハ独^ニ倚^リ神

更^レ結^シ來^レ生^シ未^レ了^シ因^ヲ 子詩ニ甚^クアリシテ上ヲ怨^ミク^ル意モナシトアリシニ見^テ玉^シ神宗ノ

母曹太后之種載か獄ニ入ルヲ詢ラ大キキ驚キ先帝仁宗ノ
コトニ彼兄弟ヲ獎美シ玉ヒ臨クノ人ニ致シ贈ラトイ御下
ヲ宣ヒ出シテ速ニ出シ玉フベシト諫カ玉フニテ神宗ノ御
心ツヒニ解ラ種載ヲ出シ獄ヨリ出シ苦州ノ團練副使ト
セラル一説鬼一神宗他界アリ哲宗ノ代トテ東坡ヲ召上
セラ龍圖閣ノ翰林學士トス中略 斯ラ東坡ハ杭州ニ在リ民
共ノ遠ク出迎免フヲ喜ヒテ朝廷ニ上ル表文モコレヲ以テ
云 江山故國 可至地也 又云遠民 相近似舊
任ニ在リテ後以前ノ如ク政務ノ暇ニハ西湖ノ流ヲ樂ミト思
ノ外大凡早ニテヨリ饑饉疫病ノ流ナリ民百姓ノ苦ニ言
ハカリナシ東坡コレヲ憂ヒ嘆キテ上ニ訴フテ年々ヲ減少シ其外ニモ
サニクト民ノツレキニ十九ノ事ヲユズレ行ヒ 中略 其後大雨ニテ
湖水漲リテ水換難シカリケル東坡之ヲ以テカラス大饑饉

タル一トハカリテ又コレヲ言上シテサニク民ヲ救フ手當ヲ示リケ
ル末春案ノコトク饑饉ナリシハ民サシテ所ヲ乏キ或ハ餓死
スル等ノ大難儀ニ及バザルヲ偏ニ種東坡ノ仁政ニヨリテ皆
其恩徳ニ感シケリ早大水事靜ニテ後東坡ハ日ハ西湖ヲ
巡見シテツクト子ヌヲ運シ大水旱ノ難共ノナキヤリハ湖水ヲ
深スルニヨリト考テ又上疏シテ奏聞ヲ遂ルル上ニテ湖中ノ草
ウラ拔ルルヲサフサセテ其土ヲ以テサレリシ三十里 日本道六七
ノ湖中ニ長キ堤ヲツキテ湖ヲ分テ東西ニテ分テ湖北湖南
往來ノ利便トス此時饑饉ノ跡ニテ貧民スギハヒニ困リケルニ是
ノ如キ大善善ニテ皆喜ヒ勇ニテ人夫トナリ大ニ民ノ完ホヒト
ナリ斯ラ程ナリ成就シケル堤アリ西ヲ裏湖ト名ツケテ堤ニ凡テ
六ノ橋アリテ水ヲ通シ船ヲ通ス六ノ橋ハ一ニ名ツク
第一 映波橋 第二 鎖瀾橋 第三 望山橋

第四 獄場橋

第五 東浦橋

第六 跨虹橋

堤ノ西側ニ柳橋 芙蓉等ヲ種返シ 異花ノ時ニ九コトニ雪ノ
如ク錦ノ如ク華 華九コトニ言詠ニ絶ス 己ヨリシテ大水旱ノ患
モナリ 西湖ノ繁華 凡華ハ昔ニ十倍シテ 凡他國ヨリ来リ
遊ラモノ樂ラ 俗々ヲ忘レテ人相界ニアラヌ 仙境ノ思ヒヲサセリ
東坡大功ノ成リシ喜ニテ 詩一首ヲ題ス

六橋横絶天漢上

北山始興 南山通

忽驚二十五年

老藪怨 捲蒼烟空

己ヨリ西湖ノ地ニ官トナル 又三年 中興 老若男女ノ輩皆サレモ 凡
雅ニシテサケル州ノ同ヤト 狂嘆元ノミニシテ 然者ナシ 朝廷
ニハ杭州ニテ 湖ノ普請ノ勤功等 聞ハヨシシテ 召上セテ 翰林
承旨トス 猶ソヨリモサレテ 浮沈ニアリテ ツヒニ 杭州西湖ノ近
邊 常州ニ住居シテ 身終テケリ 其後 徽宗 皇帝ノ代ニテ

リテ 東坡ガ 詩文 各画ヲ 殊ニ 重ジ 玉ヒ 忠臣ノ 名モ イヨク 著
レ 見ヨリテ 太師ノ 贈官 又 文忠ト云 謚ヲ 賜ル 杭州ノ 民モ
舊恩ヲ 忘レシテ 湖ノ 上ニ 白樂天トシ 複文忠トシ 公ノ
祠ヲ 建テ 今ニ至ラ 矣 諸君 若者 絶ザルナリ

○三生石蹟

朋友ノ 交リハ 信ヲ 貴ムトイフ 言ハハ 見言ノ 葉ノ 始 迄カハ
ラヌヲハ 石交ト云ナリ 信義ナキ者ハ 昨日ニ 天子ニ 云カハシテ
今日ハ 忽ク 離離トシ 抑 西湖ノ 天竺山 天竺寺ノ 後ニ 三ツ
ノ 大石アリ コレヲ 三生石ト名ツケシ 謂フヨ 尊ルニ 昔シ 圓澤 法師
者 爲僧 子ノ 寺中ニ 来リ 居ケルガ 子僧 經ヲ 讀ス 念佛セズ 人
ニ云ク 子ノ 母ニ 冥然トシテ 子石上ニ 坐シケリ 以テ 唐ノ 玄宗ノ
天寶 年中 安福山ト云 謀叛人アリ 成都ニ 攻メケリ 唐
ノ 大将ニ 李愬ト云 者アリ 忠ヲ 尽シテ 防ギ 戦ヒシガ 終ニ 福山

カ為ニ討テ都ハ破レニケル李愬ナ子ノ李源モ其ニオトウ又者
三ノ志者ノ志ヲウツク何トゾシテ君父ノ讎ヲ報ヒシト心ヲ引レシメ
居ヨリケルニ程ナク妻ヲ嫁シ山ニ出ビテ再ヒ太平ノ代ニナリケドモ
李源モモ悲シ情アリノ止ガタリノ己ヨリ世ノ中ノ味キナクナリテ
妻ヲモ迎ズ仕官ヲヤテテ水ノコトク^回國ヲツクナリケル不圖
天竺寺ニ尋入レシ彼國津路ノコトク人キウヒナリケル此ノ李
源ヲ見テ久ク別津ノ人ニ逢ル^也シテ日暮ヨリ日ニコノ石上
ニ坐會テ甚ヒ坐シテ話シテ^三世ノ交リヲゾ約束シヨリケル
天竺寺ノ衆僧^後ハ我等が寺ニ生免石佛ニ依アリ云ケル
源^後源ヲヤシハ石ヨリ外ニ知人モナリシ^今知人二人ニナリ云ケ
云ケル李源ハ^二志者二人ニコノ石上ニテ三人ノ朋友ナリトゾイヒ
ケル^{田舎}名^後石上ノ世ニテ残り^三生石上ニ云ナリケリ 川隔生
^{田舎}其後十二年過テ八月十五夜西湖ノ菅沼川ノホトリニテ

ホ子源ツ待ケルニ向フノ岸ニ牧童ノ声ノ声シヨリヤウクト近ヅキ
来リ牛ニ騎テ川づレニ呼ビリケル李公別才美ナシヤト云ニ
オトヒキテヨク見レバ園池ハ舊面目也^ハ云々^ハ老少ノ違ヒ
アハノミナシハ其心ニ猜ズレテ云リサテハ^ハ海師ニテオハシケンカ^ハ家
此ノ家ニ待更ナリ久シ^早ク^ココ^ナク^ハ来リ玉ト云ニ^牧童^ハイ^ウモ
其^レテ^ハ云^テ云^ク

三生石上舊精魂 黃月臨風石罅洩

慚恨良朋未敢訪 此乃雜異性在存

中略 李源園池一ツニ歸室ノ後室ニテ一片石ヲトメテ今ニ
古蹟ヲ残シケリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○松島図誌抄録

抑在りし中略松島陸奥州之域郡松島村ありと中略
松嶋といふ總名にして其内子数多の諸記其証ありと世に
八百八島といふと大小の嶋、数多きといふありと
今皇をといふと多し松嶋村ありとありと嶋三十五あり
上大寺の島ニツキ甚ちいし嶋と其外他村ありと松
嶋の海面よりありと脚ありとありと嶋に数多ありとありと

△沙汰年

△瑞岩寺 青龍山瑞岩殿圓福寺と称す山根花園妙心寺
の末流なり臨濟宗也凡松嶋にあり所の古寺松嶋寺といふ
中略 火鈴 瑞岩寺にあり物ありとありと七寸徑四寸
ありとありと鈴ありと形ありと鐘のありと中よりありと
△觀瀾亭 灰山公豊臣大將より伏見は處と祥受

去りて此所より禱して立寄るとも柱の四方面也
記す處亦四ツ 雨奇晴好四字の類 先大守 獅山の法華
割とよみ非あり 観開亭三字の類 佐木文山の著るる外圍の垣の細竹と
細竹の組と其組や四ツ打十二玉とよみ是と貝玉垣
とよづく尋常のいふは是元伏見は扇より福せら
るりとも 貝玉垣ハ玉垣ハ代名のさしゆく
替玉垣と云ふとよみ説あり

按ずるも雨奇晴好の四字の末乃蘓軼、西湖の詩に
半はるも西湖の勝際唐山よりりて天下第一と唱ふ松
嶋の松葉も日本よりりて第一と称すともハ西湖の秀
々として此亭よりよみつるのいふ事一最る白
西湖初晴復雨 蘓軼
水光激灩晴方好 山色空濛雨亦奇
若把西湖比西施 後稔濃抹也相宜

△海女量寺 福聚山と称す松嶋の内南にあつて
大津より所の山乃半腹にあつて瑞峯寺より十餘所
あり陸を山沿て峻岨ありと舟よりりて此寺の庭
前より海上乃眺を望山を望しと山を望むは意
くありあつて近く見るあつて一景の勝地なり
△達磨堂 寺より上の山の頂にあつて中宗達磨大師
赤衣の木像日本三達磨と称す片岡和良八幡城に以て
とすく三體ありとも

- △七浦 林の浦 梅が浦 鹿が浦 胡桃が浦
- 生蓮が浦 片の浦 光徳が浦
- △八崎 象鼻崎 小松崎 亀ヶ崎 須崎
- 法師崎 蛇ヶ崎 津が崎 月見ヶ崎
- △渡月橋 法嶋一ツの橋形も七十間餘あり古の松

嶋栂 一説に夫大ききなる栂 是なる為し 民都て忠教の

子

ぬくちりてやうりしやう次業乃孫さきくふりしもの栂

合古歌

至陸奥見栂嶋又海中有奇嶋往昔日本武尊

至此嶋國首國民崇之言御嶋 上宮太子

松嶋哉御嶋者不見止日標方之月之都之外于尋者

和歌本紀下 上宮太子即聖徳太子の故事とす

高陸船尾

林のむ夏月やと一海冬河原の原州のしとよ 仲のつりあひ
あまのつるごと一海冬栂の木比栂をも 高子をたれり 河原の栂舟

皇太后宮大夫俊成

立ち下り又も耳て見ん栂嶋やと一海冬河原の原州のしとよ

栂嶋やと一海冬破りよる波冬月栂舟子多きく栂舟

昔より陸奥に奇栂舟しとよ中まに栂島冬

一と下舟一の名栂舟まに代この集子載るる古人乃

歌数多きく栂子こてよもく次ふくく観迹開老志し

詩にまうていより國風にまうるゆえにや古人の賦

詠多し次其勝際子融次一手佳作を更し終く

唐土まで元乃代の詩人一絶句あり

薩天錫

风光招我海山阿 拍手吟魂奈句何

御嶋烟波栂嶋月 到兹捲舌富楼那

相模州 田原坊

栂嶋やとてと一海冬河原の原州のしとよ

或云芭蕉翁此比に才下風景以奪せし詞乃及

八尋の事を知て終子一句と相すくして去りぬほと
西へ来た所より後子相する句を

朝とすぬ誰よりしほそかしくしつて

△路程 江戸より松嶋まで丑の方九十九里口仙臺

下より丑寅の間に半千里口千加賀の塩竈より北の方二里

半海陸ともに里数同じし遊覧者必舟路取返す

奇観多し陸路もさせる峻岨多し

松嶋より富山内方二里 海軍の陸路もさせる口千加賀

山平 寅卯乃間千里 海上は同じし里数同じし松嶋より

のる一は風は

△富山 松嶋の東北手樽村の内より海山平に出た

山形り木立涼くして晝少く一はほのくし半橋より

大仰寺より小寺ありとの院中あり船を泊まらば松嶋の海

西庭上は泉水のゆく浮る嶋は目の下よりなり
松の緑を手に摘む一は必はる其風景詞も及ぶ
よありて古より松嶋の風景は富山よりなり
き近の船より東南遙き大海の一と一色なる
きき太い相する諸山よりをき唐那の二つ
の程おつとき古きき山よりき日細山に
下皆是とありて一は又漢舟の相する
岸葉の流るりゆく塩屋のあり風をいきて
ともまたぬしくはぬらん

文政三年庚辰四月

仙臺

鼓缶子述
東澤 図

天保四癸巳九月予抄録之

水海道草

江戸より津浦迄六馬屋より小坂と小坂江武百五里
は水より日知地又合松系海浜より小坂風を吹風
中より小坂風を吹風とやませとよ小坂わらとん八九里と
まよま 船屋より小坂江中の海をくくるとよとよ
ふりまの湖に海あり船のこまて風吹きま
ちよままてかこし吹風吹てのり船に吹風吹ま
ゆり船小坂よりまて南部の沖へ漂流する事爰に
又夏の男よりかたこりともよまありこの別より
たよりて未だ別ふやよまのりりる海底よりわき
わていりより大波主小坂のりりるおんきくきとえ
まの船業とありたりたりとや海西二三版も

言く又ゆるす事世時小のりかひしる船をあん
まふれよふされし又瀬たよりきて破船をりし事
ありし事

一、無事無敵中のもくき江列大津の備より村等
のとの多ししか笑能くおねの者まありし百姓も
お氣をいれんとの又津波南部のとのまぢりあり
為人をいふ旅人あり百姓の業田能く破（中ノ二）青魚ノコトトシとあり
て農業者二十七のてとりて租税といはれぬ
中の収納ものには船獵漁小海内一畝大獵ありし
中無事無事出千の米必糧といふ事ありし糧のふ
いたのつりし船をいふり来りて年々時節にたぐり
去分十日過よりより来りたれしと大津の中は二三
畝ありし事所糧とゆまはるる年々との後世ありし事

船の事とくキルといふ世時小武家とくしりし
船中のとのともい先若大小一箇世時小がふり
して田代農社といふ事ありし事分よりしり
凡そ船に志しんはしりし事分よりしり
ハ又此布少のりし事分よりしり
と下一箇小やといふ事分よりしり
ありし備を左風中てとていふし要列名深く小踊
りし事とも船をいふことふしりし事分よりしり
由ありし事ありし八月はより船をいふ事分よりしり
さるや、方も少りし事分よりしり
用意家といふことありし事分よりしり
ありし事の中よりしりし事分よりしり
一、世方小船夷（流）もとの

のほかに彼者言まきし海と云ふ事と云ふ事
いふ事ありしより中興の或る事
あつて松前中てつたものしやんやい
時佐重信とて松前には進せしものとも
といふ

松前家未だ松前を治めしは徳川氏に
小治しては刻めしして治果とて
之は松前の海邊に松前氏ありしもの
小長城と云ふ海邊に下國氏ありし
ねはて戦争止つたなり松前家之
甲斐源氏とて若狭の國より小國
松前と云ふこの國に小長城あり
英雄ありしと云ふ事

葉よりし松前一回としてありし
の備中や備前との國に松前氏の
名中興するなり松前と云ふは
のちと成りしと云ふ事
一と無他松前と云ふは松前と云ふ
國と云ふ事ありしなり松前と云ふ
の碑に松前と云ふ事ありしなり
まはらば松前と云ふ事ありしなり
ありし事ありしなり松前と云ふ
事ありしなり松前と云ふ事ありし
事ありしなり松前と云ふ事ありし
事ありしなり松前と云ふ事ありし

初少神切瘡打身小あり 下世

右通巻八枚の古本とあり元文年中(存)もじ
目松前報夷地一海り臨海の間又聞のく香
等と以下わ記せし書と共一帖書江先く好茶
之字所としり(存)板倉源ら宋(昔注)報夷地
志科をうる多(以下不可讀)

長崎紀行抄

常州水戸長玄珠記

里正

船正

監曹

後以の遊りし法浄者として河家の恩がさあり
はゆら希は法王を遊りせしと云小栗判友のこ
とゆりの況あれと是改會してと実を記し△
入川舟候一水とて甲斐文の格稿より流す来る白
旗村の神りり金子宮より源延尉の首を埋り
一不舟交りて海と祠の茶子あり

白旗明神

飛禽已盡奈良弓不減淮陰元帥功昔日更無麟閣賞孤
村空祭白旗宮

○雪を以てするものときよとて上は山人三と

よものたきおりきと建て漆と女重ーけすを死
よものたき おりき と建て 漆 と女重 ーけすを死

○ゆすりの入りのおふい半雲るゆ蝶子けの石研りの控
ゆすりの 入りの おふい 半雲る ゆ蝶子 けの石研りの 控

○筑根の美水も小田京城より初春あり女人と武名と
筑根の 美水も 小田京城より 初春あり 女人と 武名と

函谷

東方百二國石壁萬重山縦有鷄鳴客奈河函谷関

○系と春系よのりらするあて富士の裾登りし平岩山を
系と春系よの りらする あて富士の 裾登りし 平岩山を

あてよりけい山ありてふ新系も流あり
あてよりけい山あり てふ新系も 流あり

有詩

○富士川ゆへー日本一の早川あり先崩とて富士城の

○又けを富士をえんりしは名ありといへも富士を三
又けを富士を えんりし は名あり といへも 富士を三

○天竺川は長流の濁くも流まをるゝみ水は戸と京
天竺川は長流の 濁くも 流まをる ゝみ水は 戸と京

○浮奈村がら龍のまじり良吉教とてが兼座有りて
か友美外とて風雅の男としりて
老一修とれく
か友美外とて匡摩も字と有りて鳥屋屋人の次
ありて是を云ふ之をとりて長田と居り長田和善の傳教
なり
題加藤山人葉肆

青松落葉清風地接鳳来仙路通幾歲主人能賣藥也知市
上有壺公

○十不赤坂の宿に宿して沙門寂照法師大に定基
このところの遊女のまじりて遁世せしと云ふ言ふと遊女
まじりて有る
○風来山若理法師云

○長沢の所は七松平の一長沢家の伝承ありて松平
のつりり△寶流すは二村山ありて
中ありし一松平ありて松平百子に色未更坂と云ふ
是七年詮の武名も及のまじりて有るに異一之△矢

別の鶴長と二百八日午一の天橋にけむと之河と松平
の春田矢別大年とて三ツの大河あるなりと云ふ
○はの川尾別の所は板橋の長の方と鶴平とせむはげ
かそれとせむはげなり

○あると云ふ所の海老島とてこの所をわがとて
○またある所は熱田大御神社に二石日本武皇の御
△八剣の宮と草薙の宮とて神法とて一曰松乃剣とて
造りて盗賊の跡と云ふははげとていふなり

熱田宮

當時表狄入中原征伐功高倭武尊清廟巍然東海道長無
胡馬度關門

所乃中に源左主の宮とて涉邊娘の父松田右将と云ふ
又采名津

百里片帆去清風波浪平如何東渡道福得杖柔名一益池
○大津古の志賀乃都あり此敷九千八百人家は軒餘△
三舟る中興古語ハ乾よりよりさうさうとてハ送送と水底
りし亦危イモシ氏阿りや孫按まほさるも何ともの事使し本志を
して此を信よさうとて取象尋古の語とて其ありけり
玉より清来の物あり。

○十七の胡天海海の下ハ軒屋は若く古語よりハ大江の
岸を是あり。古言 浪迎波飲の待りしゆりして雲舟のこけり。
浪巴のりしを張て今も此のこあり。

△大坂所敷六百二十七家敷二千七百七十戸人数九千八百五
は百五十一歳場十六荆棘林ハケ新

○須磨の里徳妻天神。一夜白髪天神もいふよしよりハ長原氏也ハ
平の旧迹跡尋神。の事ありけりはさういふ人ありしゆのゆり

△須磨の山見額より野山福祥ちとる家極むり一平
の馬馬盛なりとて凹ありとのあり

○此の山山の遊遊れまふよりハ片帆月をそりてとて

○たも豊茶有るハ長門お距し遠より古所たの海原より
早戸トモ後ハ神あり毎年十二月、夜は祓人海神よしく秋布
を刈りしやうりの神事とて

△石籠 袴たてて三月目法をこむ籠の下あり

○九尺の障障る名美ミ櫃ツの裏ありといふ石炭も古中もこ
堀ウツ敷きとてとて後て移くといふ用け一擔ツ三担又こ

○江浜山古ありし母ハハ竈山ハハ筑前才一のさ山あり
まより久ねもまねる竈山ハハ家とて音も烟とてあり
柱取を天物とて

○昔方より幸有るよし事ハ天満宮の陵四百本哉とて神

ふむらり石を居石橋二至門別殿東西の法衣堂茶師
堂は殿中門回廊を祀神樂堂法橋あり好子好る
の事祈りたり社の本は鳥居石上二米の松に丸欄を
く圍うるの御方よりしてしきすはなす遊ばしと花松
と下り人ばじしとをす物
○遊家 平家なげり
昔いと誠をよしのを
あしあしとてまをまき
松をばしとては
はじつら申のありしつらとて松のま枝を
明菩薩天錫天満宮詩 無常
説法現神通千里飛梅一夜去 逸事夢醒 雲吐月 觀音寺裏一鐘声 明洪彦詩
日本曾聞北野君受梅滿酒又能又請居三千里一夜飛香渡海雲
延喜三年二月二十五日右大臣薨于配所葬于安樂寺
池まの字の
縁ありとて法をてそこの橋をわし地をす老棟数株何
く其中は二三午ふく大ふく橋あ天をすりりしとて
大より地中より鴨鵞鶴羽羽集一銀銜遊泳く人の望
然をばし似り社地を即古の安樂寺に延喜十九年安
系仲又建立至今の業河をさく若の海客といふ氏延喜五年

と号し神宮とて妙とていふ事礼を二月も廿二日
廿二日とてし松の守りくよの核子縁文をまきり物あり
雲流新ありしとて人なるはと去りてそと是を文
るがとて宿歌のしとて連すの分を具しとて神を懸
けしはる初ん分を子十積を二南と去約え長分あり
別ありは清々集懐希とてとてし神宮とて本細し詠
つと巻はのり是よりたかくはうらとてし六月十七日
かゞ以乃連す方ありまて方師をあらはは髪あり
一はよほの宴とてしつらとてのまありんせとて
をりしとてかあは月夜のみまきりて毎とては

菅原廟

一朝登鼎位千載起儒風歌興柿山秀詩同元白工台星落
宰府霽靈感 皇宮今日廟堂上瑞雲自鬱葱
○延喜五年八月壬子始く神廟とてし海味酒の宴ありて人なるりて一
説は日者系仲平のれを延喜一に收房社地を宮心と府茶の池摸心宮承云

△長崎入津乃... 安永... 出所長サ
百八回... 安永... 出所長サ
子... 南... 卯... 南...
入津... 館... 地子...
浪合子... 安永...
紅毛人... 安永...

紅毛館

王制後來... 遠民紅毛委質在瓊津... 風十兩... 西洋外
勿道東方無聖人
中吳... 紅毛館... 公卿
大丈... 紅毛館... 公卿
赤絲... 紅毛館... 公卿

貞享五年存... 刻... 海... 衣襟
二己の... 人... 家...
日... 衣襟... 衣襟...
氏... 衣襟... 衣襟...
海... 衣襟...

清客館

聞説... 王... 鼠... 時... 何...
可... 漢...
一... 福... 長...
張... 子... 長...
瀧... 二... 重...

馬子と豆魚

○九月九日 祝日の名札に云ふ所の中多所中の繁昌と年中第一乃

仕記あり

○長途の音小物

眼鏡 硝子 巾半 天文石具 石印形列
 有る生及多 花巻纏 象形浮 笠物有板 海老紙
 花巻紙 紅布紙 蓮花 錦吉 根下子流一宿 信州系 珠散
 女刺装 遊是伝衣 玉細工 石巻 遊珊珍珠 糸擦
 及重一式 有板細工 減 石橋石工 有板 製紙
 錦弓伝 煙草 南瓜 西瓜 八升豆 源文を ジャボ
蜜柑の大小袋 赤豆 豆 琉球芋 有菓子類 菓子 吉餅
 取麻餅 沙糖 白黒氷 烏羅保衣 香沙糕
 火縄糕 玉子糕 牛皮 賀良饅頭

○南赤雲菓子 思ふ

長崎

瓊海通 夷夏古年 往來米并 重源 活至 船載 貨財
 本土 供以 新番 土人多 俊才 可憐 山水 美採 華哲

○餅 日之天村 下 大村 侯二 八子 石代

是と似て 里人の 物語は けい海 海嶺 と ときま
 き 観 と 候 土ま 養 古ま 法士の 核を 立流 と 許
 土 錦 船 十 被 あり 皆 朱 塗 しく けいの 本 あり 養
 古 夫 下 知 あり 形 古 旗 と たり あり 一 基 二 基
 の 古 夫 あり 一 基 二 基 軍の 古 あり 一 基 二 基
 身 女 次 あり 一 基 二 基 養 古 夫 けいの 古 あり 一 基 二 基
 生 銀 あり 一 基 二 基 一 基 二 基 一 基 二 基 一 基 二 基

石室神宮は後泊瑠鏡宿禰の於月初と集ると云
及地敷合縁ありてくまの人の年中の法計とこの宗
新のゆゑと上西土の大神と下の雲の阿比陀の法云三月
廿四日春の濱の市月十有是と日本の三大市と云申す
は子鴻才一ありてまゝと山とをる。美の尻ありて
十丁石山とて志松梅樹ありて奇石怪巖の間は神社
は殿に十字塔ありて車山の法云廣島の城下とて映令
可と志波の東の地ありて古く教を禁部より麻糍多く阿と麻と
阿家と羽集りてありて食と求むて女子もも別
く知と遊ぶは子信ありてく角と法とて阿家
細細とて麻とて阿角ありて法の外浦とて神とて文
多周廻七里中とて平法城八十三とて麻ありて阿海とて阿燕とて
阿燕とて阿六七里法とてく七五五阿

〇書字山 中号 鳥亀 千モ 私菓子

〇娘法 中号 阿家とすくく城郭の中は圍入とて他とて婦
ある事し

〇書字山 中号 じりて不音塔とて阿とてく阿とて
本と法とてく阿とてく法とて阿 好醜阿帝の阿の法云
有れとて阿とてく阿とてく阿とて阿の法并とて阿とて
多侯林系侯の靈とてく阿とてく阿とて阿の法云
の法とてく阿とてく阿とてく阿とて阿の法云
伯仲ありて阿とてく阿とてく阿とて阿の法云
は只八百とて法とて阿とてく阿とて阿の法云
の阿とて阿とて

〇静々 中号 俗とて石の室殿と林と 中号 祠のたたの柱と大石
子大田神 中号 阿とてく阿とてく阿とて阿の法云

石生石子オラシコ、実々大乙オホヤチ、少長スナキ、命ノミあり。魚イサ、

○屋上清光キヨミツ、元よりとりたりと、神后三韓凱陣ノ時敵神、教之ニ三韓ヨリノ敵上トシ、

○屋上守忠モリタカ、友の要石イサノイシ、梅ウメの申子ノウコ、碑イシ、伊田イダ、方カタ、古コ、境サカイ、つらばり、

○人麿ヒトサ、田神イダノカミの祠ミヤ、月照ツキテル、院イワン、と、正三、祠ミヤ、石イシ、碑イシ、正三、園ニ、

世ヨ、終ハシ、子コ、梅ウメ、一ヒト、つら、え、末スエ、人ヒト、齋イハヒ、石イシ、又マタ、主ヌシ、と、卒スセ、去サレ、

尸シ、と、わ、良ヨシ、子コ、梅ウメ、葬イハヒ、し、と、正三、海ウミ、と、歌ウタ、子コ、墓イハヒ、と、う、た、塚ツツミ、と、云イハ、

○深波フカナミ、橋ハシ、八ヤチ、増ゾウ、次ツギ、候コト、の家イヘ、を、始ハジメ、田イダ、氏ウヂ、正三、大坂の軍職多侯の勲功によ

○楠氏ノグサキ、碑イシ、正三、源義倫之親筆也、源義倫之親筆也、

飛トビ、は、二ニ、字ジ、正三、源義倫之親筆也、源義倫之親筆也、

○石イシ、生ナマ、子コ、正三、源義倫之親筆也、源義倫之親筆也、

○石イシ、生ナマ、子コ、正三、源義倫之親筆也、源義倫之親筆也、

○石イシ、生ナマ、子コ、正三、源義倫之親筆也、源義倫之親筆也、

○石イシ、生ナマ、子コ、正三、源義倫之親筆也、源義倫之親筆也、

○石イシ、生ナマ、子コ、正三、源義倫之親筆也、源義倫之親筆也、

○石イシ、生ナマ、子コ、正三、源義倫之親筆也、源義倫之親筆也、

燕水先生著述出板書名

改正日本輿地路程全圖

漢土歷代沿革圖

全主鴉編圖

大清廣輿圖

地球新圖

禮記王制地理圖說

初系新譯地球全圖

五帝圖說

清槎唱和集

高詩平仄考

皇紀打中清史略說

天象學宮規抄

標註

東輿紀刊

源文

附 奧羽必山 北越七奇 諸州音碑攷

